

## 令和4年度 第4回 帯広市都市計画審議会専門部会 議事概要

日 時：令和5年2月28日（火曜日）10時00分～11時30分  
場 所：帯広市役所 10階第6会議室  
出席委員：小林部会長、河西委員、神田委員、窪田委員、紅葉委員（以上5名）  
事務局：和田都市環境部長、篠原都市建築室長、  
（都市政策課）岡田都市政策課長、中島都市計画係長、堀田主任補、三浦主任補  
傍聴者等：報道関係者 1名  
配布資料：会議次第、座席表、大空地区地区別構想（案）、参考資料

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 部長挨拶
- 3 部会長挨拶
- 4 議 題  
大空地区地区別構想（案）について
- 5 閉 会

### 【議事概要】

#### ○議題 大空地区地区別構想（案）について

事務局より大空地区地区別構想（案）に基づき説明。

#### ○委員からの主な意見

- ・行政は計画を作ると、それに従って事業者や住民はその通り動いてくれると信じているが、なかなかそうはいかない。そのため、「まちづくり」から皆で意見交換しながら進めていく「まち育て」にしていかなければならない。
- ・大空団地は、SDGsにおける「誰1人として取り残されない」という項目の先駆的なスタートを切った場所であるため、「育てる」ということを大事にすべきと考えた。
- ・子供達がいきいきと育っていくことが大事であり、子供達の意見をどういうふうに聴取して反映するのが「まち育て」に必要なことである。
- ・間接的に大空に住んでいる子供達はどのようなことを考えているのかを聞いたところ、勉強するために集まる場所が無いとのことであった。それは、スーパーが無い、買い物ができないという親と同じくらいの大事さを持っている。
- ・団地の長老の方から、畜大の学生が大空で子供達に勉強を教えたり、交流したりすることがあったので、それを復活させて、子供達の集まる場所とうまく結びつけて、という話があり、子供達がいきいきと遊んだり、育みあったり、刺激を楽しんで生活することが大事であると思う。
- ・プラスワンのまちづくりについて、1階づくりはまちづくりという話を書いたが、大げさなことをしなくても、まち全体が楽しくなり、人の出会いができ、顔が見えるような場所を作ることができる。すぐに変えることはできなくても、少しずつ皆がこういう方向に変わっていくと、比較的短時間で大きく変わることができるのではないかと思う。

- ・大空団地を計画した時は鍋の最初の時みたいに分かれていても、人が住み始めたり、リノベーションしたり、人が変わったり、考え方が変わったりすると、だんだん鍋のように綺麗ではなくても少し混ざることによって美味しくなるのが住宅地のありようだと考えるべきである。
- ・住宅地のあるべき姿を考えたときに、例えば hocco の小商いが挙げられる。スーパーがあり、そこに行くと何でも買える状況ではなく、小商いがたくさんあり、そのまちを楽しみながら、人と人の顔を見て会話しながら楽しんでいく。綺麗に並べたまちではなく、少しごちゃごちゃしているけれども、味わえる、美味しい、心地よいというようなまちに大空はなっていくと良い。
- ・住民の方も、少しまちに関わると、だんだん積極的にできるようになり、まちの活性化につながっていくと思う。そうすると、新しい何かを導入しなくても、まちとして再生されると思う。
- ・畜大には変わったサークルが多く、そのようなサークルの活動が大空でできると面白い。それらの活動の中で大空広場等が使われていくと、学生が準備の方と外部の方という形で携われると思った。
- ・地区別構想の実現性に関しては、どのように外の方に認知してもらい、外の方の大空のイメージをどういうふうに変えることで認知に繋がり、それが大空に直接来ることに繋がるか、そのステップがすごく重要だと思う。
- ・参考資料のアンケートが少し見づらいので、表や図など統一感があると、見た時にわかりやすくなると思う。
- ・今後誰かがリーダーとなって進めていくのが重要であり、大空の人をどうやって説得し、納得してもらって、今の大空地区に手を加えて行くのが大変だと思い、畜大のマニアックなサークルが、大空を魅力あるまちにしていく手助けを今後できれば良いと思った。
- ・大空地区の入口の部分が変わり、大空広場も少しずつ動きながら、途中にある小学校跡地やその周辺も変わっていくと、比較的わかりやすく変わったことが理解できると思う。
- ・本編の6番「実現に向けて」が意義があると思う。行政としては、書きぶりとしては支援しますが、が限度だと思うが、行政がどれだけ本気になるかというところで、スイッチが入るかどうかということもあると思う。
- ・地区別構想が出来たことによって、大空の現在の動きを市民の方にも理解してもらえきかけになると思う。「実現に向けて」には行政の意気込みが表現されているので、大空の中にいる人も期待していこうし、周囲の人も大空の変化を期待しながら見ることができると思う。
- ・用途地域を変えることなく人を繋ぐまちを作ることができるということは、素晴らしいと思う。用途地域を変えなくても大空を変えられるし、行政としても大空地区を大切に见守り協力する、という姿勢が伝わる。
- ・マーケティングを学びたい、という学生は割といて、本学は、小樽商大と北見工大と共同で運営をしており、小樽商大のマーケティングの分野に興味を持っている学生が多数いるので、大空地区というチャンスのある場があることを学生が分かるだけでも、学生の意識自体が変わると思う。今の学生は受け身であるため、ゼロベースで考えるのが苦手な部分もあることから、

こういったことができると思われたものが先に作られていると、学生が入りやすいと考える。

- ・「勉強難民」は畜大にもいるし、高校生にもいるという話を聞いている。大空は駅から遠いから、駅近くに住んでいる子が勉強しに行くのは難しいかもしれない。また、近くのスポーツ施設と連携しながら使えるような施設があると良いかもしれない。